

(国) 福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科 (橘高校出身)

(※2022年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

大学受験で前期、後期ともに落ちた時からです。聖母の編入学は高校の担任の先生から教えていただきました。浪人をして4年制大学を受験するほどのモチベーションがなかったため、一度短大に入学して自身のキャリアプランを決定したほうが良いと判断しました。入学当初は就職と迷う部分もありましたが、聖母での授業や先生方との面談から徐々に編入への決意が固まっていきました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期から始まる編入志望者向けのキャリアデザインを履修しました。そこでは、大学研究や志望理由書の書き方、小論文、面接対策など編入試験に必要なことを学びました。英語に関しては、編入英語の授業をすべて履修し、単語力や長文読解力を高めました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年生の前期から先生と面談する機会があり、そこで編入への意思を固めました。志望大学と試験科目の確認はなるべく早めに行うことをお勧めします。小論文、面接対策は1年生後期のキャリアデザインから本格的に指導を受けます。過去問は、英語・小論文どちらも2年生になってから解きはじめ、小論文は個別に先生に添削をしていただきました。その他志望理由書や面接練習など、試験に関わることはほぼすべて先生方に添削や相談を依頼し指導をうけていました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

受験や勉強法についての情報を集めることです。編入に合格した先輩やキャリアデザインを担当してくださった先生方に勉強法やモチベーション維持方法など様々なことをお聞きしました。特に自分の志望大学に合格した先輩にお話を聞くとかなり参考になります。私は、編入に対して不安や焦りを感じていた時期に、先輩にかけていただいた言葉がとても励みになりました。編入は自分との戦いでもありますが、情報を集めると自分の勉強に自信が持てるようになると思います。

Q. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

1年生から自分のキャリアプランについて考える授業が多かったため、将来やりたいことが明確になった点です。私は就きたい職業がなかったため、将来について漠然としたイメージしか持っていませんでした。しかし、聖母で受講した様々な講義で、様々な生き方や学びがあることを知り、人生の選択肢の幅を広げることができました。私の場合は編入という進路を選びましたが、聖母の学びは明確な動機を持って自分の将来と向き合うきっかけになったと思います。

Q. 先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

先生方からいただいたアドバイスはどれも励みになりましたが「編入は結局のところ精神論だ」という言葉が印象的でした。実際に試験に向けて地道に努力していくにあたって、メンタルも含め自分の調子をいかに良好にコントロールするかが大切だと感じました。おそらく勉強を続けていく過程で少なからず辛くなると思います。親身に悩みをきいてくださる先生方ばかりなので、相談してみると的確なアドバイスをたくさんいただけると思います。

Q. ①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①漠然と受かる気がしていたので落ちた時はショックが大きく自暴自棄になっていました。

②短大生活が楽しめるか不安でしたが、友達にも恵まれ行事や日々の生活を充実させながら試験勉強をすることができました。

③結果がどうあれ、後悔がないように自分にできることをやりきろうという気持ちでした。

④周りの友達はすでに卒業後の進路が決まっていたので、自分も無事に合格することができてほっとしました。

Q. これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

今まで編入学という目標に向かって学んできたことや経験で無駄になっていることは何ひとつないと思います。目指す進路や結果がどうあれ、頑張ってきたことは必ず自分の財産になります。聖母短大では日々の学びの中で自分の将来を実現するために必要な目標を見つけることができます。様々な経験をして実のある短大生活を送ってください。